

## 2020年に向けて ～今年の振り返りと今年の目標～

歴史的な節目を迎えた2019年、さぼうと21は活動の3つの柱、就学支援・学習支援・相談事業をさらに充実させたいと考えております。

### ▶ 就学支援

2019年度は「生活支援プログラム」見直しのため新規募集を停止し、支援継続中の約30名に奨学金を支給します。年々、外国人の増加と長期滞在化が進み、大学等への進学相談も増えていますが、定住外国人対象の給付型奨学金がほとんどない状況は変わりません。難民等の外国人の進学や就職を支援し、確実に自立に結びつけるために、相談事業と緊密に連携したプログラムを準備中です。



### ▶ 学習支援

都内2カ所で日本語や学校科目などの学習支援をしています。目黒の教室には毎週、ボランティア講師と学習者が100名近く集います。ここ数年の間に、ミャンマー以外の国籍の方が増え、子ども達も増え、小中高生に対する学習支援の重要性を感じています。2年前に始まった錦糸町教室も開催が安定し、毎週15名前後が集う学習支援の場となっています。

### ▶ 相談事業

2018年も、“教育”、“生活一般”、“医療”に関するご相談が多数ありました。「難民認定され、ようやく家族の呼び寄せができた。子どもの学校はどこがいいだろう？都営住宅に応募したいが手続きが分からない」「手術が必要になった。支払方法を病院と相談したいが、一緒に来てもらえないか」等、今後も行政や医療機関への同行が増えることが予想されます。情報を正確に理解してもらうため、必要に応じて通訳の方と協力し、対応してまいります。

より多くの難民等の定住外国人が安定した生活を築くことができるよう  
事務所の移転を検討しています。継続的に活動を応援してください！

..... 当会への会費・ご寄付には税法上の優遇措置がございます。 .....

## 不動産等のご寄贈についてのご相談を承ります

まずお電話、メールでご連絡くださいませ。専門家とともにお伺いいたします。

## マンスリーサポーターを募集しています

月々1,000円からご寄付いただけます。会員制度もございます(個人年会費5,000円)。

マンスリーサポーター おかざき ゆうは **岡崎 友葉さん**(グエン ティ ミー ディエップさん/ベトナム出身、元支援生2009年度卒業)

私は高校1年生から大学院修了までの長い9年間、さぼうと21のご支援を受けました。お陰様で学業や研究に集中することができて、現在社会人生活を送っています。さぼうと21には、大変お世話になったお母さんのような存在の方がいました。その方がご健在の間に、さぼうとに何らかの形で恩返しをしたかったのですが、残念なことにととう実現できませんでした。しかし「Better late than never」。ほんの少しですが、マンスリーサポーターとして毎月寄付をしています。



## 研 究 報 告 会 ・ 交 流 会

外国にルーツのある私たちが作る“人や環境”に優しい社会

“今年も来てみましたが、学生たちの研究がどんどん深まっていて面白い。”(ご来場者より)

日時：2018年12月15日(土) 14時～17時 / 会場：東洋熱工業株式会社 大会議室(東京都中央区京橋)

## ■医師不足で困っている地域の皆さんと距離の近い医師を目指して

おおいし 大西 アリネ ミキ さん(山梨大学 / ルーツ: ブラジル)

日本の医師不足は深刻です。原因のひとつに、診療科と診療地域の偏在があると言われています。外科と産婦人科が特に不足しており、労働環境が悪化するなどの悪循環も生まれます。また都市部に医師が集中し、地方になるほど不足しています。私は山梨県出身ですが、甲府には医師が多いものの、少し離れた地域になると深刻です。

国家試験まで2ヶ月を切りました。合格したら山梨県の医局に入り、地域の皆さんと距離の近い医師になれるよう頑張りたいです。



## ■2021年までに、人に優しいインターネットのシステム確立を目指して

なつがわ きよし 夏川 清さん(電気通信大学大学院 / ルーツ: -)

父親が難民として来日後、私は高校生で来日し、まず日本語学校に入りました。漫画や日本料理が好きで来日した周りの友人とは違う自分の生い立ちに、初めは抵抗がありました。大学院ではコンピューター・ネットワークを学びました。今研究している「CCN(コンテンツ指向ネットワーク)」という新しいシステムを使えば、インターネットで観たい動画やゲームに直接アクセスできるようになります。世界的にも2021年までにこのシステムの確立を目指していて、海外の学会で発表する機会も増えています。



## ■環境に優しい技術で、豊かな社会づくりに貢献したい

しん そうけん 沈 宗賢さん(立命館大学大学院 / ルーツ: 中国)

私の故郷、雲南省は一年中過ごしやすく、多くの少数民族が暮らしています。中国は経済発展で豊かになりましたが、環境汚染が深刻です。そこで環境に優しい「モノ作り」をしたいと考え、精密加工の研究を行いました。そして、加工の最終工程の研磨に必要な「研磨液」と「研磨工具」を開発する上で、工程の短縮と廃棄物の減少に取り組みました。卒業後は農業機器の会社で働きます。環境に配慮した機械を開発し、より豊かな社会づくりに貢献したいです。



## ■宇宙開発を通じて地球環境の改善を

ゲン タット トルン さん(東北大学大学院博士課程 / ルーツ: ベトナム)

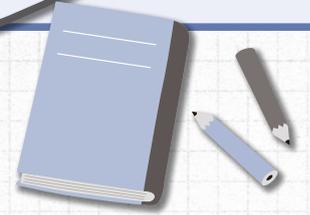
祖父がインドシナ難民として来日し、僕は日本で生まれ育ちました。大学院では超高感度ナノ識別センサーの研究開発を行いました。一方で、趣味の登山を通じ、科学技術の発展が自然破壊にもつながる事実に気づきました。科学技術を環境保護に生かす術はないか考え、幼い頃からの夢である宇宙開発の仕事をする事になりました。宇宙開発はあらゆる分野を応用した学問なので、地球の環境保護に直結する近道だと思っています。夢は10年後、明確に環境改善を達成することです。



2019年度は地球環境、医療、教育、宇宙工学等、幅広い分野での活躍を目指す学生たち9名の支援が決定しました。将来を見据え、目標をしっかりと持つ学生たちが、それぞれの目標を実現できるよう共に一年歩んでいきたいと思えます。

## 支援生の夢を一部紹介させていただきます！

- 再生医療に関心があり、人体の損傷した部位を快復させる技術を開発したいと考えている。将来は製薬会社に就職し、創薬を通じて社会貢献したい。(在籍校: 横浜国立大学・理工学部、ルーツ: 中国)
- 外国籍生徒のための学習支援ボランティアの活動に参加している。将来は、発展途上国での児童生徒の学習支援活動に携わりたい。(在籍校: 滋賀大学・教育学部、ルーツ: ブラジル)
- 最先端の宇宙開発機構で研究を行うことを目標としている。未知なる宇宙の解明に貢献していきたい。(在籍校: 青山学院大学大学院・理工学研究科、ルーツ: -)



2018年度も、ボランティアの皆様、ご寄付くださる皆様のお力で、学習支援室は元気に活動することができました。加えて、下記の助成金や団体からのご寄付をいただき、学習支援室の活動もさらに充実したものとなりました。深く感謝申し上げます。

- ・文化庁 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(A)
- ・東京都「平成30年度 東京都在住外国人支援事業助成」
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社「2018年度コミュニティー・グランツ・プログラム」

## 「私、必要なものを取りたいです」

皆さんに支えていただいている土曜日の学習支援室ですが、訪ねる機会のない方も多いと思います。今日は、ミャンマー出身のNさんからうかがったお話をご紹介します。

### ■お子さんが生まれてから、ずっと勉強に来ていますね。今、おうちでは遠いですよね。

はい、私、神奈川に引っ越すことになりました。2017年の3月。でも、子どもは今、4年生で、私は教えることはできません。それで、がんばって、土曜日に来るようにしています。

近くにボランティアグループあるって友達が言ってたけど、私、一回でも行ったことないです。さぼると21は自分も慣れているし、気が合うから・・・子どもも東京に来たいみたいで、両方合わせて、続けた方がいいかなあとって、私、がんばって来っています。

### ■「気が合う」というのは、どういう感じですか。

慣れる感じ。新しい場所に移ると、また自分のこと初めから教えるとか、人が聞いても自分のこと、理解できないことも多いです。ここは難民グループで、自分も難民申請から始まっているから、好きになっている感じです。

### ■そういえば、運転免許の勉強をしていたこともありましたよね。

どこに行っても、何か手続きしても、「免許ある?」「免許ある?」って。その頃、1年のビザあったけど。それで、ビザより免許の方がなくなっちゃって、日本語も全然わからないうちに免許の学校に行っちゃいました。それで、さぼると21で免許の勉強も助けてもらって、自動車学校の安心コースに入ってたんですけど、3カ月で免許とりました。今、永住権をもっていますから安心ですけど、でも、どこに行っても免許証が必要で・・・私、必要なものを取りたいです。

### ■まだまだ取りたいもの、やりたいこと、ありますか。

はい、あります。まず(日本語能力試験の)N2合格したいです。でも、勉強は足りない。自分も分かるけど、最近体調も良くないし、時間もあまりないし、子どもの世話もやるし、自分もアルバイトやってるし、でも、その中でも、がんばって毎週土曜日に来て、ひとつ言葉覚えるぐらいでもいい。N2のために、目指してやっています。

それが終わったら、私、旅行の資格、取りたいです。まだいっぱいやりたいこと、あります。

### ■どうして「続けよう」「がんばろう」って思えるんですか?

どこに住んでもやらないといけないことが多くて。日本はやればやっただけ効果が出る。だから年とか時間とか関係なくて、やりたい気持ちがあれば、何でもできるよって、周りの人にもボランティアの方にも言われて。それ、聞いたから、年、関係なくてやりたいです。

### ■今、困ってることってありますか?

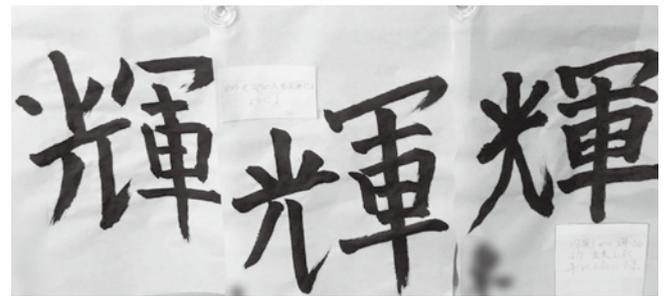
私、外国人だから困ることは多いけど、私が最初から「私は外国人ですから、日本語ちょっと間違えちゃうこと多いですけど、お願いします。正しい日本語に直してください、お願いします」って、最初にお願いしたら、困ること、ないと思いました。向こうが理解してくれるから、スムーズに行きます。

でも、まだまだ足りないです。漢字ももっとやりたいです。これからもよろしくお願いします。

学習支援室に参加する皆さんそれぞれに、深い思いがあることを改めて感ずるインタビューでした。新しい年を迎え、心新たに前に進んでまいります。



助成金の使い道のひとつはボランティアの研修や勉強会。  
この学びの機会が活動をより豊かで確かなものに。



新年の書き初めは一文字漢字。  
三者三様の「輝」には、「内側から輝けるよう充実した年に」  
「自分も周りも輝けるように」のメッセージ付き



# Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.66 2019.3

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

## 社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、定住外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。

認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。

学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

## 私たちの活動を応援して下さる方を求めています!

■会 員：法人会費50,000円/個人会費5,000円

■ご寄付：随時受付

■マンスリーサポーター：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

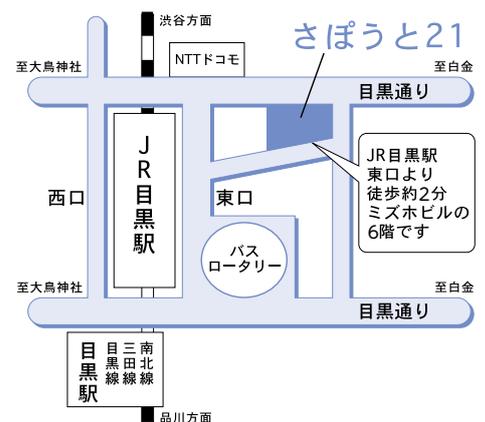
## ◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
三菱UFJ銀行	目黒駅前支店(普) 1390060 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

## お問い合わせ

## 社会福祉法人 さぼうと21

住所： 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階	
TEL： 03-5449-1331	FAX： 03-5449-1332
E-mail： info@support21.or.jp	URL： http://www.support21.or.jp



## 難民支援40年

## インタビュー集の刊行と専門家による研究会

今年11月の認定NPO法人難民を助ける会(AAR)40周年を記念して、これまでAAR、社会福祉法人さぼうと21(以下、さぼうと21)の活動に尽力されてきた関係者の方々へのインタビュー企画が進行中です。

AARは1979年に「インドシナ難民を助ける会」として出発しました。AARはその後、5周年を機に「難民を助ける会」と改称し、活動の場を、広くアジア、アフリカ、旧ユーゴ、ハイチなどに拡大し、これまでに60以上の国と地域で支援活動を展開してきました。

92年、AARの国内事業を引き継いで、さぼうと21が創立され、AAR同様、多くのみなさまの参加と支援によって活動してきました。

どんな人が、なぜこうした活動に参加したのでしょうか。会ではどんな仕事をし、何を果たしたのでしょうか。40周年の節目に、会の活動を記録するだけでなく、会を支えてきた人たち、ボランティアなど、それぞれの40年を振り返ってみようと、このインタビューが企画されたのです。

学生、主婦、日本語教師、看護師、会社員など、さまざまな立場で関わった14名の方々が登場する予定です。そしてこれがこの企画の特徴ですが、14名に話を聞くのはAARの現役スタッフ、さぼうと21学習支援室の意欲的なボランティアの先生方が中心です。他方、話し手も個性的な面々ですから、できあがるインタビュー集もなかなか読み応えのある一冊になりそうです。11月に刊行予定です。

なお、柳瀬房子さぼうと21最高顧問(AAR会長)の発案で、2017年に、学者・研究者等による「インドシナ難民研究会」(蘭信三上智大学教授)が発足しました。この研究会では日本の難民受け入れ、定住促進に大きな役割を果たした市民活動の展開について調査、研究を進めています。今回のインタビューの企画にも、この研究会のメンバーが積極的に加わり、インドシナ難民の定住、社会統合に大きな役割を果たしたAARやさぼうと21の活動、ボランティアの果たした役割について、学者・専門家の視点で研究しています。

インタビューの実施や研究会にかかる経費については、(株)SBP(日野洋一CEO)が協力してくださっています。記して謝意を表します。



海外の難民の方へ送る「ひざ掛け」を作るボランティアの皆さん(1998年)